

## マーケット概況（2020年9月）

9月の債券相場は、1日に行われた10年債入札が軟調な結果となったことから売り優勢で始まり、債券先物9月限は一時151円56銭まで下落し、10年359回債の利回りは0.045%まで上昇した。しかし、米国株式市場が利益確定売りから大幅安となったことを受けて、本邦債券市場はじりじりと買い戻された。7日は8月の米国雇用統計が予想に反して大きく改善したことから一時下落に転じたものの、米中のIT事業を巡る経済対立や10日に米国の追加経済対策法案が否決されたことを受けて債券相場は堅調に推移し、イールドカーブはフラットニングした。月央にかけては米国FOMCや日銀の金融政策決定会合が開催され、また16日には菅新内閣が組閣されたが、債券相場への影響は限定的で方向感に欠ける展開となった。その後、欧州で新型コロナウイルスの感染が再拡大し、世界経済の先行き不透明感が強まったことから連休明けの債券相場は買い優勢となり、23日に10年359回債の利回りは一時0.005%まで低下し、24日に債券先物12月限は152円29銭まで上昇した。月末にかけては、高値警戒感から利益確定売りが優勢となる場面もあったが、半期末要因から年限長期化の買いも入り売り買い交錯し、10年359回債の利回りは0.015%で今月の取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は投資家需要に支えられ-0.1%台前半で推移し、月後半の年越え償還債では-0.1%台後半に低下した。4日の3M934回債入札は、最高落札利回り-0.1162%と前回債の-0.08%台から大幅に低下してスタートした。その後、11日・18日の3M入札では-0.10%～-0.11%台で推移していたが、年越え償還債の海外投資家需要を反映した25日の3M940回債入札では-0.16%台と再び大幅な金利低下となり、3M940回債は-0.180%で月の取引を終えた。6M・1Y金利は、国庫短期証券買入オペ月間総額が前月比減額となったものの、投資家の担保需要は根強く入札を無難に消化した。セカンダリー市場では概ね-0.1%台半ばで推移し、6M939回債は-0.158%、1Y937回債は-0.164%で月内の取引を終えた。

### <一般債市場>

10年政保債は3ヵ月ぶりに起債された。7～8月の地方債のタイト化の流れを受け、発行スプレッドは前回(6月)債比2bp縮小し国債カーブ+5.5bpで決定した。10年地方債は同+10.0bpと3ヵ月連続して前月比1bp縮小した。10年基準金利が比較的高い水準にあり、絶対値ベースで一定の水準を保ったことから、需要堅調で無難に消化された。また5年地方債は0.02%クーポンを維持したことで販売は好調だった。社債の新発債発行額は1兆8,389億円と記録的な起債額だった前年同月(2兆7,170億円)と比べ9,000億円程度減少したが、劣後債や日銀オペを意識した事業会社の起債が多く見られた。劣後債と残存5年以下の事業債は、それぞれ6,500～7,000億円程度起債され発行額の7割程度を占めた。

### ◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#359	0.040(1日)	0.005(23日)	0.045(1日)	0.015(30日)
#358	0.030(1日)	-0.015(24日)	0.030(1日)	-0.005(30日)
#349	-0.055(1日)	-0.110(23日)	-0.055(1日)	-0.010(30日)
#144(5Y)	-0.075(1日)	-0.135(24日)	-0.075(1日)	-0.115(30日)
#173(20Y)	0.415(1日)	0.385(23日)	0.435(7日)	0.395(30日)
#932-#939TDB(6M)	-0.122(1日)	-0.167(18日)	-0.122(1日)	-0.158(28日)
#933-#940TDB(3M)	-0.127(1日)	-0.205(25日)	-0.110(18日)	-0.180(30日)